

## 〔生駒〕 市立病院 救急科を正式設置方針 体制充実図る 来年1月

毎日新聞 2015年11月27日 奈良版

6月に開院した生駒市立病院は、診療科目として救急科を来年1月に新設する方針を決めた。救急医療の充実が病院新設の目的の柱で、市立病院は当初から救急患者を原則受け入れてきた。開院以降の市内での救急患者受け入れ率は7割を超えており、正式に救急科を設置することでさらに体制の充実を図る。 【熊谷仁志】

25日夜に開かれた市長の諮問機関「病院事業推進委員会」で救急科と形成外科の追加が了承された。市立病院は14科体制になる。

救急医療に関しては、医療機関の「受け入れ拒否」で患者の処置が遅れることが全国で相次ぎ、社会問題化した。市立病院の事業計画には、入院が必要な2次救急医療の充実を基本方針として盛り込んでいる。

市によると、現在は救急専門医2人らが救急患者に対応している。救急科を設置して受け入れ体制を明示することで、病院側は「患者の応急処置、重篤な患者を診る3次救急医療機関への転院などをよりスムーズに行う体制の整備につなげたい」としている。

市消防本部の6～10月の救急搬送の速報値によると、患者1738人のうち、市内の病院に運んだのは市立病院(340人)を含めて1282人。市内での受け入れ率は73・8%で、前年同期の62・4%から11・4ポイント増えた。平日夜間や土日祝日の当直時間帯に限ると、受け入れ率は71・8%で、前年同期より16・3ポイント増えている。